



▲元気に走る生徒たち：金浦小

▶保護者と一緒に楽しむ：平沢小

大いに盛り上がった運動会

～市内各小学校で運動会～

4月29日、5月上旬に市内各小学校で運動会が行われました。

ことしの運動会は、天候に恵まれ、市内すべての小学校がグラウンドでの開催となりました。

運動会では、踊りや応援合戦、保護者と一緒に楽しむ競技、綱引き、運動の目玉ともいえる色別対抗リレーなど生徒たちが精一杯がんばっていました。生徒たちを応援する保護者も大いに盛り上がっている様子でした。

元気な子どもになるように

～JA秋田しんせいから土づくり実証米贈呈～

5月15日、秋田しんせい農業協同組合（阿部和雄代表理事組合長）から「土づくり実証米（ひとめぼれ）」が市へ贈呈されました。

贈呈にあたり、阿部和雄代表理事組合長は「次代を担う子どもたちから地元産の安全な米を食べてもらい、元気な子どもになるように期待します」と語っていました。

贈呈された実証米は、翌週に市内学校の給食で活用し、先生から「皆さんのお父さんが育てたお米かもしれませんよ」と紹介された後、子どもたちは笑顔いっぱい、おいしそうにそのごはんを食べていました。



▲おいしいお米に子どもたちもご満悦な様子

▶阿部代表理事組合長から土づくり実証米が市へ贈呈

水稲栽培の低コスト化を目指して

～水稲直播栽培播種実演会開催～

5月10日、馬場地区圃場で「水稲直播栽培播種実演会」が行われました。

現在の水稲の栽培方法は、育苗箱に種子をまき、ビニールハウス等で苗を育て、田植え機械で田んぼに植える「移植栽培」で行われています。これに対し、「直播栽培」は、代かき後の田んぼに種子を直接まく栽培方法で、育苗関連の作業、設備、資材が不要となるため、低コスト化と省力化が期待され、現在注目を集めています。実演会には、多くの農業関係者が参加していました。



▲実演の風景

▶直播栽培の説明を熱心に聞き入る関係者たち



本間マル子さん

昭和33年小砂川保育園に保母として採用され、乳幼児保育に30年の期間にわたり、任務に精励されました。また、昭和63年から同園の副園長・園長として7年の永きにわたり地域の児童福祉に多大な貢献をした功績が評価され、瑞宝単光章が授与されました。



佐々木松美さん

昭和32年から平成5年まで秋田県事務吏員として県政発展のため多大な貢献をしました。その間昭和61年には金浦町に助役として派遣され、平成5年まで歴任されました。また、平成5年6月に金浦町長に初当選以来、平成17年6月までの3期12年の永きにわたり町政運営を担い、地方自治の発展に多大な貢献をした功績が評価され、旭日双光章が授与されました。

佐々木松美さん（十二林一区）に旭日双光章
本間マル子さん（上浜の町）に瑞宝単光章

永く後世に伝承することを願い

～郷土民謡顕彰碑設立実行委員会から寄付～

平成10年に設立した郷土民謡顕彰碑設立実行委員会が3月31日をもって解散し、このほど、勢至公園内に建立している「郷土民謡顕彰碑」と委員会費が市に寄付されました。

顕彰碑の建立は、民謡秋田の声価を高めた金浦地域の土門信江氏、高力市太郎氏、齊藤弥吉氏、加納初代氏の4氏を郷土の誇りとし、功績を称えたものです。寄付をした実行委員会からは、引き続き顕彰碑の維持管理をしながら、永く後世に伝承してもらいたいと要望がありました。



勢至公園内に建立した郷土民謡顕彰碑

